

入学者受入れの方針（大学院 研究科）

花園大学大学院が、その教育の目的と、大学院が担う「4つの人材養成機能」および「知のプロフェッショナル」を育成する役割に基づき修了認定・学位授与に関する方針に定めた修了時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、志願する研究科・専攻で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、学部までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、本学大学院の志願者には、以下の（1）～（5）のことを求める。

（1） 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学院で学ぶ目的意識と意欲を持っている。

（2） 知識・理解〔AP2〕

志願する専攻分野についての基礎的な知識を理解して修得している。

（3） 思考・判断〔AP3〕

学士課程までの学修を通じて、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

（4） 技能・表現〔AP4〕

学士課程までの学修を通じて、日本語による文章理解・表現能力、ならびに文献・資料を読解するために基礎的な語学能力を持っている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

（5） 態度・志向〔AP5〕

志願する専攻の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。

入学者受入れ方針（大学院 研究科）

文学研究科

文学研究科が、その教育の目的と、大学院が担う「4つの人材養成機能」および「知のプロフェッショナル」を育成する役割に基づき、修了認定・学位授与に関する方針に定めた修了時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、学ぶ目的意識や意欲を持った上で、学部までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、文学研究科の志願者には、以下の（1）～（5）のことを求める。

（1） 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学院で学ぶ目的意識と意欲を持っている。

（2） 知識・理解〔AP2〕

志願する専攻分野についての基礎的な知識を理解して修得している。

（3） 思考・判断〔AP3〕

学士課程までの学修を通じて、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

（4） 技能・表現〔AP4〕

学士課程までの学修を通じて、日本語による文章理解・表現能力、ならびに文献・資料を読解するために基礎的な語学能力を持っている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

（5） 態度・志向〔AP5〕

志願する専攻の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。

社会福祉学研究科

社会福祉学研究科が、その教育の目的と、大学院が担う「4つの人材養成機能」および「知のプロフェッショナル」を育成する役割に基づき、修了認定・学位授与に関する方針に定めた修了時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、学ぶ目的意識や意欲を持った上で、学部ま

での学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、社会福祉学研究科の志願者には、以下の（１）～（５）のことを求める。

（１） 自立性・自律性・主体性〔AP 1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学院で学ぶ目的意識と意欲を持っている。

（２） 知識・理解〔AP 2〕

社会福祉学や臨床心理学についての基礎的な知識を理解して修得している。

（３） 思考・判断〔AP 3〕

学士課程までの学修を通じて、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

（４） 技能・表現〔AP 4〕

学士課程までの学修を通じて、日本語による文章理解・表現能力、ならびに文献・資料を読解するために基礎的な語学能力を持っている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

（５） 態度・志向〔AP 5〕

社会福祉学や臨床心理学の学修において獲得する知識や技能を活かして、福祉現場のリーダー、教員、公認心理師や臨床心理士等の高度な専門性を要する職業等に従事することで社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。人と触れ合うのが好きで人に優しく、ヒューマン・ケアの仕事をするのにふさわしいパーソナリティの持ち主が望まれる。

〈修士課程〉文学研究科仏教学専攻

仏教学専攻が、その教育の目的と、大学院が担う「４つの人材養成機能」および「知のプロフェッショナル」を育成する役割に基づき、修了認定・学位授与に関する方針に定めた修了時に身に付けておくべき５つの資質・能力（DP 1～DP 5）を身に付けた人材になるためには、学ぶ目的意識や意欲を持った上で、学部までの学修

で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、仏教学専攻の志願者には、以下の（１）～（５）のことを求める。

（１） 自立性・自律性・主体性〔AP 1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学院で学ぶ目的意識と意欲を持っている。

（２） 知識・理解〔AP 2〕

臨済禅を中心とした仏教についての基礎的な知識を理解して修得している。

（３） 思考・判断〔AP 3〕

学士課程までの学修を通じて、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

（４） 技能・表現〔AP 4〕

学士課程までの学修を通じて、日本語による文章理解・表現能力、ならびに文献・資料を読解するために基礎的な語学能力を持っている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

（５） 態度・志向〔AP 5〕

臨済禅を中心とした仏教の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。

〈修士課程〉文学研究科日本史学専攻

日本史学専攻が、その教育の目的と、大学院が担う「４つの人材養成機能」および「知のプロフェッショナル」を育成する役割に基づき、修了認定・学位授与に関する方針に定めた修了時に身に付けておくべき５つの資質・能力（DP 1～DP 5）を身に付けた人材になるためには、学ぶ目的意識や意欲を持った上で、学部までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、日本史学専攻の志願者には、以下の（１）～（５）のことを求める。

（１） 自立性・自律性・主体性〔AP 1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学

院で学ぶ目的意識と意欲を持っている。

(2) 知識・理解〔AP2〕

日本史学の各専門領域における基礎的な知識を理解して修得している。

(3) 思考・判断〔AP3〕

学士課程までの学修を通じて、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

学士課程までの学修を通じて、日本語による文章理解・表現能力、ならびに文献・資料を読解するために基礎的な語学能力を持っている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

(5) 態度・志向〔AP5〕

日本史学の各専門領域において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。

〈修士課程〉文学研究科日本文学専攻

日本文学専攻が、その教育の目的と、大学院が担う「4つの人材養成機能」および「知のプロフェッショナル」を育成する役割に基づき、修了認定・学位授与に関する方針に定めた修了時に身に付けておくべき5つの資質・能力(DP1～DP5)を身に付けた人材になるためには、学ぶ目的意識や意欲を持った上で、学部までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、日本文学専攻の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学院で学ぶ目的意識と意欲を持っている。

(2) 知識・理解〔AP2〕

日本の文学・言語学・言語文化に関する基礎的な知識を理解して修得している。

(3) 思考・判断〔AP3〕

学士課程までの学修を通じて、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

学士課程までの学修を通じて、日本語による文章理解・表現能力、ならびに文献・資料を読解するために基礎的な語学能力を持っている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

(5) 態度・志向〔AP5〕

日本の文学・言語学・言語文化の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。

<修士課程>社会福祉学研究科社会福祉学専攻

社会福祉学専攻が、その教育の目的と、大学院が担う「4つの人材養成機能」および「知のプロフェッショナル」を育成する役割に基づき、修了認定・学位授与に関する方針に定めた修了時に身に付けておくべき5つの資質・能力(DP1～DP5)を身に付けた人材になるためには、学ぶ目的意識や意欲を持った上で、学部までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、社会福祉学専攻の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学院で学ぶ目的意識と意欲を持っている。

(2) 知識・理解〔AP2〕

社会福祉学や臨床心理学についての基礎的な知識を理解して修得している。

(3) 思考・判断〔AP3〕

学士課程までの学修を通じて、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

学士課程までの学修を通じて、日本語による文章理解・表現能力、ならびに文献・資料を読解するために基礎的な語学能力を持っている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

(5) 態度・志向〔AP5〕

社会福祉学や臨床心理学の学修において獲得する知識や技能を活かして、福祉現場のリーダー、教員、公認心理師や臨床心理士等の高度な専門性を要する職業等に従事することで社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。人と触れ合うのが好きで人に優しく、ヒューマン・ケアの仕事をするのにふさわしいパーソナリティの持ち主が望まれる。

〈博士後期課程〉仏教学専攻

仏教学専攻が、その教育の目的と、大学院が担う「4つの人材養成機能」および「知のプロフェッショナル」を育成する役割に基づき、修了認定・学位授与に関する方針に定めた修了時に身に付けておくべき5つの資質・能力(DP1～DP5)を身に付けた人材になるためには、学ぶ目的意識や意欲を持った上で、修士課程までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、仏教学専攻の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学院で学ぶ目的意識と意欲を持っている。

(2) 知識・理解〔AP2〕

臨済禅を中心とした仏教の関連分野に関する修士の学位を持っている。

(3) 思考・判断〔AP3〕

独立した研究者として学術論文を執筆することができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

日本語による高度な文章理解・表現能力、ならびに文献・資料を読解するために高度な語学能力を持っている。研究遂行のために必要な情報収集および論

理的思考の能力を備えている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

(5) 態度・志向〔AP5〕

臨済禅を中心とした仏教の学修において獲得する知識や技能を活かして、研究者や専門職業人として社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。